



のみのまるいじとミュージアム



能美の歴史や文化、自然などを博物館ミュージアムのように、紹介します（隔月連載）

能美市の海岸で見られる動植物

能美市の海岸（ここでは根上海岸と呼ぶことにします。）へは、これから夏本番にかけて訪れる方も多い事と思いますが、様々な動植物が暮らしています。



写真左：オニユリ、写真右上：ハマゴウ、写真右下：ハマボウフウ

中でも大浜町の海岸に群落のあるハ

マナスは、市民の皆さんにもなじみのある海浜植物でしょう。ハマナスはバラ科バラ属の北方系の落葉低木で、5〜6月にかけて濃いピンク色の直径8センチほどの花を咲かせます。花にはほのかな芳香があり、初夏の訪れを伝えてくれます。8〜10月には赤い実を実らせます。ハマナスはこの実から「ハマナス」と呼ばれていたものが訛って「ハ

マナス」になったようです。またハマヒルガオやハマゴウ、オニユリ、ウンラン、ハマボウフウなども初夏から夏にかけて海岸を彩る花たちです。ハマヒルガオは薄いピンク色の朝顔に似た花を5〜6月に咲かせます。ハマゴウは紫色の花を7〜9月ごろに咲かせ、葉など全体的にユーカリに似た香りがするため、浜の香「浜香」という意味があるともいわれます。オニユリも7〜8月にかけて鮮やかなオレンジ色の花を咲かせ、ウンランも夏に白と黄色の花を咲かせます。蘭に似ていることから、「海の蘭」、ウンラン

と呼ばれるといわれます。ハマボウフウは、白いカリフラワーのような花をつけ、長い根つこにはさわやかな香りがあります。食用にもなることから、乱獲され、数が減少してしまいました。石川県の準絶滅危惧種に指定されています。

そして、根上海岸は希少な渡り鳥の繁殖地でもあります。こうした野鳥は、卵を温めている時期や子育ての時期に、人がむやみに近づいたりすると、巣を放棄してしまうことがあります。さらに、自動車やオートバイによる繁殖地のかく乱や、カラスなどによる捕食にもさらされ、絶滅の危機に瀕している種もいます。

根上海岸は、市民の憩いの場であると同時に、希少な動植物の大切な生息地でもあります。むやみに植物を採取したり、野鳥に近づいたりせず、多様な生き物たちが暮らす豊かな能美の自然を後世に伝えていきましょう。

文：博物館事務局



ひぽ・ゆずのEcoでえこっさ

【燃やさないごみのポイント】

- ・コップ、皿、茶碗、鏡などのガラス類や陶磁器類（危ないので紙や袋に包んでください。）
- ・料理用のアルミホイルやアルミ製の鍋焼きうどんの容器、使い捨てカイロ、粘土など
- ・汚れた空き缶やびん
- ・ほ乳びんや化粧品びん
- ・スプレー缶やカセットボンベの缶（使い切って、缶に記載されている方法でガスを抜き、穴をあけてください。必ず火気のない風通しのよい屋外で行いましょう。）
- ・電池や蛍光灯などはリサイクルセンターまたは町会・町内会の収集場所で資源として収集します。

問い合わせ 生活環境課（☎ 58-2217）



人口と世帯数

2019年6月1日現在

- 人口 50,248人 (前月比+63)
- 男 24,991人 女 25,257人
- 世帯数 19,158世帯 (前月比+66)

「広報のみ」は再生紙を使用しています。